

NST(栄養サポートチーム)・褥瘡防止対策委員会

当委員会は全ての入院患者様を対象に適切な栄養療法が安全に施行できる環境を構築し、栄養障害や褥瘡を予防・治療すること、また病院スタッフの栄養管理及び褥瘡に対する認識を高めることを目的としています。栄養障害を抱える患者様に対しては NST カンファレンス・回診を、褥瘡患者様に対しては褥瘡回診を実施しています。

※ 当院は、日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設と日本栄養療法推進協議会 NST 稼働施設に認定されています。また、平成 24 年 5 月より、NST 加算の算定を開始しています。

NST カンファレンス

栄養評価によって抽出された問題症例について、各病棟単位（サテライト）でカンファレンス・回診を週 1 回実施し、栄養療法についての検討を行っています。

※ 栄養評価項目：身体計測（BMI、%IBW）、臨床検査（Alb、TLC、PNI）、臨床診査（浮腫）、食事摂取調査 等



NST カンファレンス

NST カンファレンスメンバーと役割

医師：栄養管理プランの選定・評価、教育・指導 **薬剤師**：経静脈栄養についての助言・指導
看護師：患者情報の収集、問題点とリスクの抽出 **管理栄養士**：栄養アセスメント、栄養療法の提案
以上 4 職種に加え、臨床検査技師・地域連携看護師・MSWもカンファレンスに参加しています。

NST カンファレンスでは患者様の病態に合わせ、さまざまな栄養療法を検討・実施・評価しています。

シンバイオティクス

腸管内の環境を整備するため、乳酸菌などの共生効果を持つ生菌を投与するプロバイオティクスやこれら生菌の増殖を促進するオリゴ糖や食物繊維を投与するプレバイオティクス、両者を組み合わせたシンバイオティクスを実施しています。

グルタミン

腸管機能の改善、バクテリアルトランスロケーションの抑制、手術後の筋タンパクの合成促進、窒素バランスの改善、細胞性免疫能の増大等を図るため、グルタミン含有の栄養補助食品を使用した栄養療法を実施しています。

BCAA・LES

肝疾患の患者様を対象に、BCAA（分岐鎖アミノ酸：バリン・ロイシン・イソロイシン）含有の栄養補助食品やアミノ酸製剤を使用し、アミノ酸インバランスや肝性脳症の改善を図っています。また、エネルギー代謝異常や窒素出納の改善に効果的であるとされている、就寝前の軽食摂取（LES:late evening snack）も適宜実施しています。

ハーフ食

食欲不振の患者様を対象に、主食・副食共に小盛り（半量）とする対応を行い、量による圧迫感を軽減しています。さらに、ハーフ食と栄養補助食品を組み合わせることにより、摂食量の増加や栄養状態の改善を図っています。

褥瘡回診

平成 23 年度：555 件（平成 23 年 4 月～平成 24 年 3 月）

平成 24 年度：400 件（平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月）

平成 25 年度：372 件（平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月）

平成 26 年度：310 件（平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月）

平成 27 年度：156 件（平成 27 年 4 月～平成 27 年 7 月末時点）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
11 階(内科)	6	9	3	1									19
10 階(内科)	1	5	3	3									12
9 階(循環器・眼・耳鼻科)	2	3	1	4									10
8 階(救命・脳外科)	2	5	7	17									31
7 階(外科)	2	4	1	5									12
6 階(婦人・小児・外科)	0	0	0	0									0
5 階(産科)	0	0	0	0									0
2-4 階(整形外科)	9	11	6	10									36
2-5 階(泌尿器・腎臓内科)	9	3	7	8									27
ICU(救命救急センター)	2	1	5	1									9
総計	33	41	33	49									156

NST 勉強会

当院は、日本静脈経腸栄養学会「栄養サポートチーム専門療法士」認定教育施設に認定されています。平成 27 年度は、6 月 22 日～26 日の 5 日間に、臨床実地修練カリキュラムを実施しました。

実施状況

期間：平成 27 年 6 月 22 日～26 日（計 40 時間）

参加人数：院外 10 名、院内 2 名（計 12 名）

内容：講義、カンファレンス・回診、栄養アセスメント、症例検討、PEG 交換見学、等



カリキュラム
風景



多職種からの講義・病棟でのカンファレンス見学・症例検討など盛りだくさんの内容でした。受講者からは「とても刺激になった。自施設に帰ってスタッフに伝えたい」との声がありました。